

新自由主義と保守主義は違う

2008/09/09 14:30

私は普段は産経新聞はもちろんですが、週刊新潮、SAPIO、月刊正論、WILL、知致、それに随時発刊される単行本を購入しています。これにネットの時間が加わるわけですが、特に月刊誌は興味を引いた記事だけ呼んで終わりというケースが大半です。

以下にご紹介する記事も飛ばしていた口だったのですが、昨日電車の中で読み始めたらなるほどと思うことのあった記事です。正論10月号100ページから107ページの「マルクスの亡霊に安らかな眠りを」（京都大学教授佐伯啓思氏）というタイトルです。

サブ見出しに「グローバル市場礼賛の新自由主義は限界に来ている」「左傾化する若者のシグナルを見過ごす保守に明日はない」とあり、こちらをメイン見出しにすれば良かったのに、と思いました。

以下、一部のみを紹介（適当に改行を入れました）しますが、詳しくは正論10月号を購入の上、是非ご覧下さい（定価680円、小林よしのりのパール判決書、松原正氏の西尾幹二に直言する、恵龍之介の「敵兵を救助せよ」のそれから等々、読み応えがあります）。

・ 本質を見失った「保守主義」

何が必要だったのか。そこに「保守主義」という思想の役割があった。ただし、残念なことに、90年には、いわゆる「保守主義者」も、この種の奢りから自由ではなかった。

問題を混乱させたのは、「新自由主義」と「保守主義」の関係である。「新自由主義」はしばしば「新保守主義」とも呼ばれ、80年代のレーガノミックスの登場以来、市場万能論の「新自由主義」は「新保守」と等値されることとなってしまった。

私自身、繰り返し書いてきたことだが、「新自由主義」と「保守主義」は異なっている。両者を区別しなければならない。市場原理主義にたち、金融グローバリズムをほぼ無条件に擁護する「新自由主義」と、市場経済を、ある特定の社会の歴史的経緯や社会的構造、文化と不可分のものとして理解する「保守主義」とは大きく異なったものなのである。

「新自由主義者」はグローバルな市場経済を組み立てている「普遍的な原理」がある、と考える。市場を構成するのは合理的な諸個人であり、彼らはともかく自己利益を追求するものだ と考える。個人の能力は個人の成果として彼に帰属するものだ、と考える。そして、新自由主義者は、人間の合理性をもつばら金銭的利益のタームに解消することをいとわない。

しかし「保守主義者」はそうではない。あらゆる社会に妥当する唯一の普遍的な経済原則があるとは考えない。市場を構成するのは、個人と言うより、さまざまな利害を複合した企業組織であり、人々のつながりであり、生活の安定を求める家族だと見なす。人は必ずしも利潤を求めて生きているわけではないのである。

また、個人の能力は、他社との共同の中で発生する社会的なものだから、全ての成果が彼個人に帰属するわけではない、と考える。ここでは、社会という共同体を安定化したり、維持したりすることが、時には個人の利益成果よりも優先されるのである。安定した社会と人々を結びつける組織がなければ、自由な個人による経済活動さえも成り立たないからである。

「資本主義の暴走」をもたらしたものは、「新自由主義者」の奢りであった、というべきだろう。それに対する歯止めがかからなかったのである。その理由は「保守主義」と「新自由主義」が混同された点にあった。「社会主義」という歯止めが外れてしまった90年代に、「資本主義の暴走」を食い止めるものがあつたとすれば、それは「保守主義」以外になかったからである。

ところが、その「保守主義」が、自らの本質を見失ってしまった。社会主義という「左翼」との対決を保守の本分であるとなししていたからである。社会主義との対決が意味を持ったのは、あくまで、社会主義が存在していた時代、すなわち冷戦時代のことであった。

ポスト冷戦時代においては、保守主義の役割は、「資本主義革命」が押し進める、各国の伝統や文化への攻撃、歴史性の無視、組織の解体、社会秩序の不安定化をいかに回避するか、にこそ向けられるべきであった。

カテゴリ: コラム フォルダ: 指定なし   

コメント(4)

タグ: 新自由主義 保守主義

コメント(4)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **故郷求めてさん**

2008/09/09 21:05

正論定期購読者ですが、今月は小林氏や的場氏の論文を必死に読んでました。八木氏と戸塚・野口対談も良かったですね。これから松原さんと佐伯さんを読むことにします。ありがとうございました。



Commented by **花うさぎさん**

2008/09/09 22:45

To 故郷求めてさん

> 正論定期購読者ですが、今月は小林氏や的場氏の論文を必死に読んでました。

小林よしのりは頑張ってますね～。先に出版した分厚い「[パール真論](#)」で打ち止めかと思ってましたが、また二人が何か出版して、その反論でしょうね。私ははじめから小林よしのりの100%勝ちと思ってます。

恵龍之介の「敵兵を救助せよ」のそれから、も是非読んで下さい。私なんか涙が出てきました。



Commented by **nihonhanihonさん**

2008/09/10 16:18

なので最近「保守」という言葉を政治ブログで私は使ってません。人によって様々な定義での使い方や受け止め方をされておりなおかつ実際に専門家の方の使い方もまるで「意味その1」「意味その2」「意味その3」…のように解釈しなければならないような気がしてなりませんので。



Commented by **花うさぎさん**

2008/09/10 16:33

To nihonhanihonさん

> 人によって様々な定義での使い方や受け止め方

確かに「新自由主義」が「新保守主義」と言われ出してから「保守主義」とごちゃ混ぜになってしまいましたね。

合法的な金儲けなら何でも許されるという「奢り」が、原油や穀物相場を押し上げ、結果として世界中に迷惑を掛けているとしたらこれはおかしいということになるのは当然だと思います。